

合同

No. 474

「祈り、時間よ とどまれ！」

世田谷中原教会牧師

金 明瑾



「主がアモリ人をイスラエルの人々に渡された日、ヨシュアはイスラエルの人々の見ている前で主をたたえて言った。『日よ とどまれ ギブオンの上に 月よ とどまれ アヤロンの谷に』」（ヨシュア記10章12節）。

死んだ恋人を生き返らせるために、地球を逆回転させ時間を巻き戻すという、とんでもないシーンが映画「スーパーマン」（1978年）にありました。映画上映とともに、当時の理系の大学生たちが地球を逆回転させたら時間を巻き戻すことができるだろうかと本気で計算したこともあるそうです。時間を戻すというこの発想、実は聖書にあります。日時計が後戻りさせられ、死ぬべき命が15年延長されたヒゼキヤ王の話です。「そこで預言者イザヤが主に祈ると、主は日時計の影、アハズの日時計に落ちた影を十度後戻りさせられた」（列王記下20章11節）。そしてヨシュア記にはこれも不思議な話、時間の後戻りではなく、時間が進まないように現在に止めておいたという話もあります。

ヨシュアをリーダーとして約束の地カナンに入ったイスラエルは、カナンの中部地域の要衝に当たる一番強いエリコとアイ城壁を攻め勝利をします。このとき、アイ城の近くにいるギブオン人たちが、イスラエルの勝利の噂を聞いてわたしたちと条約を結んで平和に過ごしましょうと、白旗を掲げてきました。ギブオン人がイスラエルに降伏したという噂がカナン南北地域の5つの国の5人の王の耳に入ります。この5人の王は連合軍を作りましたが、自分たちと同じ立場で連合軍を作るはずのギブオンが、自分だけ生き残ろうとして、イスラエルと手を組んでいたことにがっかりして、イスラエルより先にギブオンを潰す計画を立てます。

ギブオンは5人の王の連合軍が攻めに来るとい

ので、ヨシュアに助けを求め、ヨシュアはこれを受けて戦うことにします。このときのヨシュアの判断は神様の約束のみ言葉によるものでした。「主はヨシュアに言われた。『彼らを恐れてはならない。わたしは既に彼らをあなたの手に渡した。あなたの行く手に立ちはだかる者は一人もない』」（ヨシュア記10章8節）。どれだけ力強いみ言葉でしょうか。戦うとき、祈る人と、祈らない人とのメンタルの強さの差は大きいものです。み言葉を聞いた者と聞いていない者の行動力の差は大きいものです。

いよいよヨシュアの祈りが想像を超える奇跡をもたらします。イスラエルはあと一步で敵を降伏させるところまで来ました。しかし、日が沈みはじめました。日が落ち何も見えなくなったら、戦うことはできません。この勢いを明日まで持ち越せるかどうかわかりません。願いとしてはもうすこしだけの時間がほしい、このような切実さをもってヨシュアは主を頼りに「日よ とどまれ 月よ とどまれ」と大声で言いました。人間が自然に命令することは不可能なことです。けれどもヨシュアは大胆にも自然に向かって命令し、なんとこれが聞き入れられたのです。「日は とどまり 月は 動きをやめた 民が 敵を打ち破るまで。『ヤシャルの書』にこう記されているように、日はまる一日、中天にとどまり、急いで傾こうとしなかった」（ヨシュア記10章13節）。

現代の戦いでは日が沈んでも照明弾、赤外線などがありますから、日をとどめる必要はないかも知れませんが、しかし霊的戦いにおいてはどうでしょうか。残された人生の時間が後少し、と思うとき、ヨシュアのように時間をとどまらせる祈りがあることを知るとき、祈ってみたいと思いませんか。愛する家族、あの人が主イエスの救いにあずかるときまでに、また主のために自分の人生ですべきことがあるならば、それが完成するまで、「時間よ、とどまれ」と祈ることは許されていると思います。日が沈むという時間が過ぎるのはどうにもならない、年を取るのはいしょうがないと、できない理由に落ち着くのではなく、不可能のように思えることでも、できるように求めてみるのが全知全能なる神さまを信じるわたしたちの信仰の特権ではないでしょうか。

わたしたちは祈ることができるのですから落胆してはなりません。祈ることができるからあきらめません。わたしたちの大胆な祈りをも神さまは聞いてくださいます。